

2017年4月

日本文化政策学会 第11回研究大会 研究発表募集要項

日本文化政策学会 第11回研究大会
プログラム委員長 菅野 幸子

1. 日 時 2017年9月17日(日)～18日(月・敬老の日)

2. 会 場 北海道大学 (北海道札幌市北区北10条西7丁目)

3. 研究発表(分科会)

今回の研究大会では、各分科会の座長から提案されたテーマを設定しました。また、期待される研究内容も提案されていますので、この中から、各自、テーマを選択の上、奮ってご応募ください。

なお、座長から提案されたテーマ以外の発表も可能です。その場合は「自由枠」をお選びください。

	座長名 (50音順/ 敬称略)	テーマ	期待される研究内容
1	伊藤 裕夫 (元富山大学)	「社会的課題 と芸術：文化政 策的観点から」	地域再生や障がい者アートなど社会的課題に関わるソーシャリー・エンゲイジド・アートアート活動が注目されていますが、これらはある面で芸術の「道具化」(政治的にも、文化的にも)の問題に関わるものです。ソーシャリー・エンゲイジド・アートを推進する視点、批判する視点、双方からの発表を期待します。
2	太下 義之 (三菱 UFJ リサ ーチ&コンサルテ ィング)	「高齢者とア ート」	世界最速で超・高齢化社会となった日本において、高齢者および高齢者が抱える社会的課題に文化政策(文化プログラム)が何らかの対応をできるのではないかと。このような「Creative Aging のための文化政策」について議論をしていきたい。
3	熊倉 純子 (東京藝術大学)	「地域とア ート：経済、市民 参加、運営基 盤」	地域とアートの関係が、さまざまな角度から研究されています。地域経済に効果があるのか？市民参加の現場の課題は？大型芸術祭から小さなアートプロジェクトまで、現場のエスノグラフィや評価システムなどさまざまなアプローチの出会いの場となれば幸いです。事例報告でもいいので、研究発表お待ちしております。
4	小林 真理 (東京大学)	「文化政策の 現場と専門家」	文化政策の現場は様々な領域に拡大してきているが、そこで必要な専門家とはどのような人材なのか。学芸員は自由に活動できているのか、文化会館の専門職とは、国際交流の現場ではどのような人なのかについて、現場の問題を

			明らかにした上で考える研究を期待します。
5	友岡 邦之 (高崎経済大学)	「制度運用の 実際／組織運 営の持続性」	一見抽象的なテーマですが、意味するところは具体的なもの。指定管理者制度も実際の運用は、最適解を求めて現場で柔軟に運用されています。こうした制度と現場の乖離の調停と、それをめぐる課題を捉えるというのが一点目。二点目も非常に具体的なもの。機動性の高い文化振興団体は小規模かつ規約も不明確なことが少なくないですが、そうした組織はちょっとしたことですぐに崩壊しがちです。組織の機動性や柔軟性と、その組織の継続性を両立させる解についての研究を期待します。
6	野田 邦弘 (鳥取大学)	「文化を通じ た地域づくり」	アートプロジェクトの増加や文化庁の文化芸術創造都市事業など、近年文化を活かした地域づくりが盛んになっています。本分科会では、このような動向について、その成果、課題、評価、など多面的な観点からの論考を期待します。
7	馬場 憲一 (法政大学)	「文化財保護 の本質とその 政策の姿」	(1)文化財とは何か、その概念とは、(2)文化財とは誰のためにあるのか、(3)文化財とは何のために保護するのか、(1)～(3)の内容と視点について歴史的な考察と現代的な課題などを踏まえ文化財をめぐる本質的な問いかけを行ない文化財政策の今後の課題や可能性を探る発表を期待します。
8	吉田 隆之 (大阪市立大学)	「国際展の課 題と可能性」	今年も、札幌を始め国内は無論、世界各地で国際展が開催されています。政策立案プロセス、影響(効果)、評価、ボランティアなど論点が多岐にわたりますが、日本での研究は始まったばかりです。国際展に関わる研究を進展させる発表を期待します。
9	吉本 光宏 (ニッセイ基礎研 究所)	「文化政策と 評価」	文化政策において評価が重視されるようになって久しい。戦略マネジメント方式、バランススコアカード方式、ロジックモデルなどを使った評価が行われる事例も増えたが、評価の方法や活用については課題も少なくない。シンポジウム2でも取り上げる「評価」について、現状や課題、今後のあるべき姿などに関する研究に期待しています。
10	未定	自由枠	上記1～9以外のテーマ

※応募いただいた研究発表の採否は、プログラム委員会にご一任いただきます。
 ※発表者は、分科会のスケジュール調整のため、原則として両日とも参加できることが条件です。

5. 発表申込締切 2017年 5月 22 日(月) 24時(時間厳守)
6. 予稿原稿締切 2017年 8月 14 日(月) 24時(時間厳守)
※予稿の執筆要項はご発表の可否をご連絡する際にお知らせします。
7. 申込方法 下記のサイトから、必要事項をご記入の上お申込下さい。

<https://goo.gl/forms/k7mpHbUj40ht4Llc2>

申込先/発表に関する問合せ先

日本文化政策学会第11回研究大会事務局
〒060-0810 札幌市北区北10条西7丁目
北海道大学大学院文学研究科 佐々木亨研究室
e-mail: jacpr.program@gmail.com
※e-mailでのお問い合わせにご協力をお願いいたします。

以上